

編輯室の内外

まだ八月にもなら無いのに、九十何度と言ふ何十年來の暑さ、體の置き處に窮して

ある位であるから、執筆者に原稿を強請むのも餘り禮では無いと思つて、本月は夏らしい薄い冊子に編輯しました、併し材料はいつものやうに精選してある筈。路政僧近時老態を呈し昔日の感無しなぞと、九州の某地方長官のやうな悪口を言つて呉れては困る、全く執筆者の勞苦に敬意を表したに過ぎない。

調査部の第四分科は此夏中に調査を完了して仕舞と言ふ申合せで、四十年來の暑さを冒してやつてゐるが、此間會合したときは最高度、しかし集つたものは牧博士を始め負け嫌の、今日は一つ牧博士

を困らせてやらうと發起したのは、茶目七郎こと三浦幹事、上衣をぬいで調査を始めた牧博士、夫れとは知らず二時間位すると今日は是れ位でやつた、スルト三浦幹事、モーアと四五頁だモー二三頁だと引張

つて遂に審議せしめてしまつた、牧博士歎息して曰く、若い者にはカナヤン、之を言はしめた三浦君、今の幹事は懶けてゐるでしやう、博士ギャフン。

道路事績の通信を募集した、まだ公告が徹底しないと見へて編輯室に到着しない、がしかし、先人が執行了た道路改良事業の實績は、各地到る所に實在してゐる筈、之を世に紹介することは、一は先人の勞苦に對する感謝とも爲り、他は現在人の爲に龜鑑とも爲る譯、同人の此舉に對し賛成して貰ひたい。

路政僧、此暑中休暇を利用して、例の行

脚細見記に筆を續けることに爲つた、時に參考資料を得るために、差し當り東海道の一部に出没するかも知らぬ、迷惑をかける僧と思はずに、我が路政の爲に話を聞いたり聞かせたり資料を提供して貰ひたい、編輯一同の切望するところ。

本號定價 五拾錢
 一ヶ年分 金六圓

發行所 社團 道路改良會
 東京市麴町區大手町一丁目内務省内
 發行所 上 山 陸 造
 編輯者
 東京市小石川區諏訪町五十六
 印刷所 常 磐 印 刷 所
 印刷者 堀 江 關 武